令和5年度　翔洋学園高等学校運営計画

1　学校の現況

【課程・学科】広域通信制・単位制　普通科

【理事長】　佐藤　睦美　【校長】　石田　進　【副校長】　髙野　佳規　【教頭】　神林ひとみ

【事務局長・事務長】　飯村　信弘

【教職員数】１４９名（令和５年５月１日現在）

校長	1	副校長	1	教頭	1	教諭	３９	養護教諭	1
常勤講師	0	非常勤講師	９６	事務職員	8	非常勤事務	2		

【生徒数】（令和５年５月１日現在）

１年次		２年次		３年次		合計	
男	女	男	女	男	女	男	女
２１０	２５５	４０４	５３５	５２０	５７２	１，１３４	１，３６２

2　目指す学校像

自分で考え，主体的に行動し，世界に羽ばたき，未来を創造していく人間の育成を理念とし，「自由・自主・自立」の校訓のもと，生徒一人ひとりの個性を尊重しつつ，明日の社会を担う人材への成長，育成に努める。また，生徒が「自分育て」をしながら，未来を創造する力「明日力」の育成を目指す。

3　現状分析と課題

項目	現状分析	課題
学習指導	不登校経験者の入学者数増加により，基礎学力に不安がある，または学習に対する意欲にかける生徒が多い。反面，進学校からの転入学者も増加傾向にあり，個々の学力の幅が広く，個別での対応が重視されている。学力に応じた支援が必要である。	・基礎学力の定着 ・学習意欲を持たせる継続的な指導 ・ICT教育の導入の推進 ・家庭との連携推進 ・上位校進学に向けた学習支援 ・グループワークの推進
進路指導	卒業後の進路決定者は増えつつある。一方では進路に対する意識が薄い生徒もいる。年次ごとに段階を経た進路指導を実施し，進路に対する意欲を高め，将来の夢や目標をもてるように支援している。（講演会・職業体験など）	・進路決定率の向上 ・年次進行における進路指導 ・進路情報の提供 ・望ましい勤労・職業観の育成 ・家庭との連携推進
生徒指導	基本的生活習慣の定着が図り切れていない生徒が多い。また，内面的に課題を抱えている生徒も増えている。定期的にスクールカウンセラーや担任との面談を通して改善が見られる生徒もいるが，自分で抱え込んでしまう生徒も多い。保護者との連携を図り情報を共有しながら対応にあたっている。また，友人関係など取り巻く環境が本人に与える影響が大きく，適切な人間関係の構築を図ることの大切さも伝える必要がある。	・基本的生活習慣の確立 ・教育相談の充実 ・家庭とのより密な連携，関係構築 ・出身中学校，前籍校との情報の共有 ・校外での人間関係等の把握 ・生徒の言動や行動の微妙な変化の把握
特別活動	積極的に行事等に参加する生徒が増え，良好な交友関係を築いている。更に一人ひとりの個性を生かすため，生徒の活躍できる場を多く設定している。反面，集団行動に適応出来ない生徒も多い。HRや各種行事における協働的な学びを通してコミュニケーション能力の定着を図っている。	・学校行事の工夫改善 ・地域性を活かした特色ある教育活動の推進 ・各種大会等への参加奨励 ・個々の能力に応じた活動の奨励 ・グループワークの推進

4 中期的目標

○　自ら考え，主体的に行動できる生徒を育成する。
○　豊かな心をもつ人間性を育てる。
○　多様な課題を抱える生徒の支援・育成をする。
○　２１世紀を担うリーダーを育てる。
○　働きながら学ぶ生徒，自宅で学習する生徒を支援する。

5 本年度の重点目標

重点項目	具体的目標
１．個々の生徒に応じた学習指導・進路指導の充実	生徒一人ひとりの能力や個性に応じた学習指導を行い，学力向上を図るとともに，グループワーク等を設定し，かかわりから学ぶ場の工夫をする。また，生徒各自が卒業後の進路決定が実現できるように支援する。
２．心の成長を重視した道徳教育の充実	道徳教育の充実を図り，一人ひとりの生徒の豊かな心の育成を図る。自ら考え，自ら判断し行動できる生徒を育成する。また，協働的な学びを通して他者との関わりを深める。
３．学校並びにキャンパスにおける行事の創意工夫	魅力ある学校行事または各キャンパスにおける行事（地域や社会につながる体験学習）を企画，運営し，様々な行事を通して，より良い人間関係（教師と生徒，生徒同士）を深め，充実した高校生活が送れるよう支援する。
４．地域との連携の充実	出身中学校，前籍校との連絡を密にし，情報を共有し合い，生徒一人ひとりの成長を図る。また，保護者会や面談を通して保護者との連携を図り，協力しながら生徒を支援する。さらに，学校評価を通して挙げられた保護者・地域等からの声を参考によりよい学校運営を目指す。
５．多様な課題や問題を抱える生徒への支援	各生徒が抱える悩みや課題を少しでも解消し，不安なく学校生活を送ることができるように，一人ひとりに寄り添い，担任，スクールカウンセラーそして家庭との連携を図り支援する。

令和５年度

学校運営計画＝（教育計画・評価表）

目指す学校像	自分で考え，主体的に行動し，世界に羽ばたき，未来を創造していく人間の育成を理念とし，「自由・自主・自立」の校訓のもと，生徒一人ひとりの個性を尊重しつつ，明日の社会を担う人材への成長，育成に努める。また，生徒が「自分育て」をしながら，未来を創造する力「明日力」の育成を目指す。

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
個々に応じた丁寧な学習指導や進路指導の実践，各種行事等における一人ひとりが活躍できる場の設定と積極的な参加により教育的効果をあげることができた。 多様な課題を抱える生徒への適切かつ継続的な対応や支援が求められる。また，個性を重視しつつも社会との関わりを深める支援が求められる。	個々の生徒に応じた学習指導・進路指導の充実	生徒一人ひとりの能力や個性に応じた学習指導を行い，学力向上を図るとともに，グループワーク等を設定し，かかわりから学ぶ場の工夫をする。また，生徒各自が卒業後の進路決定が実現できるように支援する。	A
	心の成長を重視した道徳教育の充実	道徳教育の充実を図り，一人ひとりの生徒の豊かな心の育成を図る。自ら考え，自ら判断し行動できる生徒を育成する。また，協働的な学びを通して他者との関わりを深める。	B
	学校並びにキャンパスにおける行事の創意工夫	魅力ある学校行事または各キャンパスにおける行事（地域や社会につながる体験学習）を企画，運営し，様々な行事を通して，より良い人間関係（教師と生徒，生徒同士）を深め，充実した高校生活が送れるよう支援する。	B
	地域との連携の充実	出身中学校，前籍校との連絡を密にし，情報を共有し合い，生徒一人ひとりの成長を図る。また，保護者会や面談を通して保護者との連携を図り，協力しながら生徒を支援する。さらに，学校評価を通して挙げられた保護者・地域等からの声を参考によりよい学校運営を目指す。	B
	多様な課題や問題を抱える生徒への支援	各生徒が抱える悩みや課題を少しでも解消し，不安なく学校生活を送ることができるように，一人ひとりに寄り添い，担任，スクールカウンセラーそして家庭との連携を図り支援する。	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題（振り返り含む）
国　語	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けさせる。 ・学習を通して考える力，共感する力，想像する力，伝え合う力を養う。 ・我が国の言語文化に対する理解を深め，活用する能力を身に付けさせる。	・漢字の読み書き，語句の学習等の内容を添削課題に盛り込み，社会生活に必要な国語の知識・技能の定着を図る。分からない事項について，調べる手立てを指導する。	A	B	添削課題において，分からない漢字や語句については多数の生徒が調べている様子が窺える。繰り返し学習し定着するよう促していきたい。また，「言語活動」の問題についてもほとんどの生徒が取り組んでおり，教材文を熟読し自分の想いを表出できるようになってきた。教材文から我が国の言語文化を理解しつつある内容を記述している者も見受けられる。依然として長文や難解な文章を読むこと自体を敬遠しがちで，読解問題が苦手である。学校生活の中で「聴く力」「考える力」を伸ばすことで，文章理解の助けとなるような活動を取り入れていきたい。
		・添削課題の自分の考えを文章にまとめる活動や，調べ学習，俳句の創作活動等を通して，「考える力」「想像する力」「伝え合う力」の育成と我が国の言語文化に対する理解を図る。 ・教員や生徒同士の関わりの中で自分の考えを深め，表現する力を養う。	B		
		・キャンパスにおける日々の会話・HRや面接指導を通して，生涯にわたる社会生活に必要な国語の能力の育成を図る。また，生徒の多様な課題に寄り添った学習支援を行う。	B		

地・歴	・地理，歴史に関する基礎的知識の定着 ・社会的事象に関する主体的な興味・関心の醸成 ・資料等を読み取る力の育成	・教科書の通読とレポート学習を通じて基礎的知識の定着を図る。	C	C	地理的・歴史的事柄について，地図やグラフ，資料等を活用し、読み解く力を養うために，ICTの活用を重点的に行いたい。
		・生徒個々の実態に合わせた学習指導ときめ細やかな添削指導を行う。	C		
		・知識偏重の内容から資料を活用した内容のレポートの作成	C		
公　民	・理解を深めるための基本的な語句等基礎知識の獲得 ・自分という個から所属集団や社会への視点の拡大 ・実社会の問題を自分事として捉えることができる興味･関心･意欲の醸成	・教科書通読とレポート作成並びに面接指導を通して基礎基本の定着を図る。	B	B	社会的な課題を自分事として捉えることができる姿勢や視点の獲得を指導の基本方針として据えることは堅持したい。ただし，ICTの利活用を進めつつも，知識・理解が一面的なものにならないように，それらの偏りを起こさせないために，ICTリテラシーとでも呼ぶべき能力の向上も意図した指導になるよう工夫したい。
		・社会の構成員として必要な素養の獲得を目的として，体験的な活動を通したシティズンシップ教育を充実させる。	B		
		・SDGsの達成を目指すうえで重要な「エシカル」への理解が深まるよう，身近な出来事や生活の中に見出せるものから先進事例を見つけ，触れられる機会を設ける	B		
数　学	・基礎基本の定着 ・自身の中から解答を導く感覚を養う。 ・現実世界との関連性を理解する。	・観点別評価に応じた添削課題の作成と，個々の実態に対応した指導を行う。	B	B	新課程に応じた添削課題を今年度にすべて完成とすることができた。今後は，主体的に学ぶ感覚を持たせることのできる補助教材準備を随時進めていきたい。
		・調べ学習を通して，現実世界との関連性への理解を図る。	C		
理　科	・基本的な自然現象における規則性を理解させると共に日常生活との関連付けを気付かせる。 ・探究の課程を踏まえた学習活動の充実を図る。	・観点別評価を取り入れた添削課題・個別学習課題の作成を通し，生徒の学びの充実を図る。	B	C	学習教材の充実は図れているが，座学学習以外の校外学習や実験等の実施はキャンパスによって偏りがある。環境による学習の偏りを無くすような実習等の提案をしていきたい。
		・身近な物事や現象に関する観察・実験等を通し，探究する能力と態度を身に付けると共に，基本的な概念や原理・法則を理解し科学的な見方や考え方を養う。	D		
保　体	・体を動かす楽しさ、心とのつながりに気付かせる。 ・自己の体力を知り、生活習慣の見直しを図り、計画的かつ、継続的な運動を目指す。 ・コミュニケーション能力の育成	・キャンパス内での計画的な実技スクーリングを基に、生徒の出席率の向上	D	C	出席率の向上と掲げたが、各キャンパスで大きく差が出ている状況。生徒数により実施回数が多くなるのは否めないが、各回の出席率を向上させなければ、改善策にはならないと感じる。各キャンパス、どのような具体策で改善を図るか大きな課題。球技の実施種目を増やし、充実した実技スクーリングを行うことができた。また、グループワークが定着してきており、コミュニケーション能力も付いてきているため、継続的に実施していく。
		・オリエンテーションでの実技スクーリングのへ意識づけ ・生活習慣の改善	C		
		・基本的生活習慣の改善 ・体力測定により自己の身体の状態、体力を知る。 ・実技スクーリングでのグループワークの活用し、対話からの気づきや一人ひとりの違いを理解し、尊重する姿勢を育てる。 （性別・体力・障害・運動能力の違いなど）	C		

芸　術 （書道）	・多様な場面に対応する書写の基礎能力定着 ・書道を通じた自己表現能力の向上 ・署の美しさを感じ取る鑑賞能力の育成	・各学習目標に合わせたきめ細やかな添削指導を行い、書写の基礎力向上を図る。	B	B	書を書くことの楽しさや意欲を育むために，各キャンパスでの毛筆課題制作の機会を作る。また自己表現能力の向上に繋がる毛筆課題指導や面接指導を提案・提供していく。
		・添削課題における創作作品や毛筆課題制作を通して、自己表現能力の向上を図るとともに書くことの楽しさや意欲を育てる。	B		
		・異なる書風の古典を一度に比較する内容を添削課題に盛り込み書風の違いや書の美しさを感じ取る鑑賞力の育成を図る。	A		
		・生活の中にある実用の書を題材とした添削課題や個別課題を充実させる。	A		
外国語	・基礎基本の定着を図る。 ・外国語を通じて，言語や文化に対する理解を深める。 ・情報や考えなどを的確に理解したり，適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。	・運用度が高い単語や熟語，基本的な文法を添削課題に盛り込み，基礎基本の定着を図る。	A	B	「主体的に学習に取り組む態度」においては，自分の考えや意見を伝えようとする意欲は伝わるが，表現力・文法力が伴っていない生徒が多い。英語的発想を養うこと，また，語学を学ぶ上で「基礎基本の定着」は要となるため，いかに学習習慣を身につけるかが課題となる。
		・校外学習を通し，身近な物事から外国語やその文化に触れることで興味を持たせるなど，積極的な学びの機会を設ける。	C		
		・生徒が主体的に取り組める問題を添削課題に盛り込み，学んだ内容からさらに発展した表現力を身に付ける。	C		
家　庭	・生活に必要な知識・技術の習得に努める。 ・生活を工夫し創造する能力を育成する。 ・生活の中の問題を発見し,解決に向けて動ける力，多様な見方や考え方を受け入れる力を育てる。	・成年年齢の引き下げに伴い契約や消費者問題に関する指導を強化する。（他教科と連携しながら多角的に進める。）	B	A	生徒の実態に合わせた教材作成と学習指導を行う。また，消費者教育と食育については引き続き家庭科通信を通して最新の情報を発信していく。さらに校外学習等の体験的な学びの機会を増やす。
		・ホームルームや校外学習，家庭科だよりを通して「食育」の推進に力を入れ，生徒の健康増進に努める。	A		
		・生徒の実態に合ったレポートを作成し，充実した学習指導ときめ細かな添削指導を行う。	A		
情　報	・情報技術活用能力の育成 ・問題解決に向けて情報と情報技術を活用する力を養う。 ・情報社会に主体的に参画する態度を養う。	・観点別評価を盛り込んだ学習内容および生徒の実態に即した内容の添削課題の作成を行う。	B	B	情報活用能力を育てる過程において，はじめから諦めて解かない傾向がみられた。日常的な部分から生徒に考える機会を設け，問題解決に向けて主体的に取り組めるように工夫を進めたい。
		・情報モラルの理解や情報リテラシーの基礎を個別学習課題に盛り込み，普段の生活からSNS等での発信の際の注意喚起につながる活動を行い，生徒同士の関わりを通して考えさせる。	B		
		・情報の信頼性や信ぴょう性を見極めたり確保したりする能力の育成を面接指導や特別活動等に盛り込み，協働的に情報社会に参画できる活動を行う。	B		

学習指導	・基礎・基本の習得，活用する力を育成する。 ・生徒の実態に即した添削指導課題・面接指導の改善 ・新学習指導要領をふまえた新たな教育課程の編成	・生徒の実態に見合った基礎・基本を精選し，確かな学力の育成を図る。	B	B	観点別評価を実施して２年目になり，生徒の傾向が顕著にみられるようになってきた。ICT学習支援ツールを活用して良いところはさらに伸ばし，弱点については改善がみられるような学習指導を体系的に導入していく。また，双方向オンライン学習を定着させ，より生徒が学習意欲につながる活動を進めていく。
		・観点別評価の導入により，生徒への的確な評価を行う。また，生徒が能動的に学ぶことができる体制を整え，教科の枠を超えた横断的な学習活動の検討・実施し，生徒一人ひとりの学びや成長を見とる評価を実施する。	B		
		・体験的な活動やICTを取り入れた学習活動を積極的に導入し，主体的で深い学びの実践と，物事を理解し活用しようとする能力を育み，協働的な活動を通して教師と生徒同士の対話を通した深い学びの実践を行う。	B		
特別活動	・望ましい集団生活を通して，心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り，集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする主体的，実践的な態度を育てる。	ホームルーム活動 ・ホームルーム活動を通して，望ましい人間関係を形成し，集団の一員としてホームルームや学校におけるよりよい生活作りに参画し，諸問題を解決しようとする自主的，実践的な態度や健全な生活態度を育てる。	B	B	昨年度より開始したキャンパス間の活動内容の共有や，新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを受け，各キャンパスにおいて昨年度よりも充実した活動を実施することができた。今後も生徒の実態に沿った活動を企画・実施していきたい。
		学校行事 ・学校行事を通して，望ましい人間関係を形成し，集団への所属感や連帯感を深め，協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的，実践的な態度を育てる。	B		
進路指導	・生徒一人ひとりの個性を伸長しながら，家庭及び関係機関との連携を密にして，自らが主体的に進路選択できるようにする。 ・生徒の実態を踏まえ，継続的な指導・組織的な援助相談体制をつくる。	・各キャンパスでの進路調査に基づき，生徒・学年に応じた様々な進路活動を定期的・継続的に行い，勤労観や職業観の育成，希望進路実現に向けての指針を与え，進路に対する意識の高揚を図る。	B	B	各キャンパスで一人でも多くの生徒の進路決定をしていくために行事や相談の機会を計画し、継続的に実施していく。教員間で協力しながら進路活動を進めていく。
		・ホームルーム活動，履修相談，面談（二者・三者）等を通して，学習状況・能力・進路ニーズ等，適性に応じた進路相談ができる時間をつくる。また，進学・就職それぞれの指導を教員が連携しながら一人ひとりに応じた指導を細やかに行う。	B		
生徒指導	・いじめや自殺等の未然防止に努める。 ・問題行動の未然防止へ向け，規範意識の向上に努める。 ・幅広い生徒層に対して充実した支援を行う。	・ホームルーム活動等を通じ，生命尊重や豊かな心の育成に取り組む。	B	C	本校教職員による指導に留まらず，各種外部機関の講話を積極的に取り入れた上で，生徒の豊かな心の育成に努め，問題行動等の未然防止に繋げたい。
		・日頃からの生徒観察や定期的な個別面談，保護者との情報共有に加え，生徒一人ひとりの規範意識の向上を目指し，道徳教育の充実を図る。	B		
		・スクールカウンセラーや医療・福祉等の外部機関と連携し，支援体制・内容の充実を図る。	C		

保健環境・安全	・心身の健康と健康保持増進に必要な自立能力の育成を図る。 ・環境衛生と安全管理の徹底に努める。	・生徒の健康管理を図るために，日々の健康観察の徹底および健康診断や保健調査の結果を把握し治療勧告や保健指導を実施する。	B	B	健康観察についてはコロナ禍以降，各キャンパスで定着している。次年度も継続していく。健康診断結果の把握、事後措置は実施できたが、再受診のお知らせ配布後に再受診をしていない生徒が多いので，再受診を保護者面談等で勧めることができるよう各キャンパスに促していきたい。安全点検表の項目を整理統合することができたことで，安全点検がスムーズになり各キャンパスにおいても校舎環境の安全についての把握が容易になった。今後も継続実施する。今年度作成完了できなかった危機管理マニュアルの作成を完了させる必要がある。
		・ホームルームや生徒登校時に保健だより等を利用し保健指導を実施したり，年間計画に基づく保健指導を実施したりすることにより，生徒の健康の保持増進についての意識向上に努める。	B		
		・施設設備の定期点検を徹底することや，各利用施設の避難経路の明確化，避難訓練の実施，危機管理マニュアルを定めることにより，環境整備・事故防止・事故抑止に努める。	B		
キャンパス運営	・家庭や地域との連携，協働を重視した特色ある教育活動の推進 ・教科および校務分掌，事務作業など教員の働き方に偏重が出ない効率を考えた業務の推進 ・生徒の多様性を鑑み，生徒たちの居場所となる雰囲気づくりや環境の整備に努める。	・地域の特性を活かし，家庭や地域との連携・協働を重視し，教育活動全体を通して，多様な学びや人間性の陶冶につなげる。	C	C	キャンパスの教員は，地域の特性を生かしつつ，生徒理解に努め，教育活動を展開している。ICTツール等を用いての業務改善を始めてはいるものの，キャンパスによって，負担を感じている業務にバラつきがある。より効率的に業務が進められるよう，業務軽減の好例の共有など，改善に向けての取り組みを引き続き実施していく必要がある。
		・働き方改革や服務規程の変更により，教職員の業務軽減を積極的に導入し，効率的に物事を進められるような業務の改善を図る。	D		
		・教員間の情報交換や共通理解を徹底して生徒理解を深め，生徒一人ひとりを大切にし，生徒たちの居場所となる雰囲気づくりや環境の整備に努める。	C		

【評価基準】　A：十分達成できている　　B：達成できている　　C：概ね達成できている　　D：不十分である　　E：できていない